

## 2018 年度公益社団法人日本水環境学会東北支部講演会-実施報告-

2018 年 5 月 26 日 (土), 14:30~17:00, 仙台市戦災復興記念館 4 階研修室において標記講演会を開催した。参加者は 31 名。

中山支部長の挨拶で開会し、講演 1 では平成 29 年度東北水環境保全賞受賞記念講演会、講演 2 では「マイクロプラスチックがもたらす化学物質汚染の現状と課題」と題し、東京農工大学の高田秀重先生よりご講演いただいた。

### 講演 1 日本水環境学会東北支部 平成 29 年度東北水環境保全賞受賞記念講演会

「弘前だんぶり池づくり」ひろさき環境パートナーシップ 21 (HEP21) 副代表 村田 孝嗣 氏

ひろさき環境パートナーシップは、2002 年 2 月 16 日に弘前市の市民・事業者等が主体の自立的組織として設立され、自然環境の保全や体験型環境学習の活動に継続して取り組んでいる。

今回はその取り組みの一例として、青森県レッドデータブックで絶滅危惧種 A ランクに指定されている「ハラビロトンボ」や「ハッチョウトンボ」が確認された休耕田を、弘前市環境基本計画の策定を機に、市民の力で生物多様性に富んだ「弘前だんぶり池」につくり変えていく自然再生活動や、その後の体験型環境学習への活用について取り組んだ過程を多く写真とともにご紹介いただいた。なお、だんぶりとは津軽弁で「トンボ」のことである。

講演では、候補地の選定から整備まで、「だんぶり池」づくりに関する一貫した理念(考え方)がある点が強く印象に残った。ご講演の内容は、本団体の活動の一例にすぎないが、メンバーの熱意や意識の高さも垣間見えるすばらしい活動であると感じられた。



### 講演 2 「マイクロプラスチックがもたらす化学物質汚染の現状と課題」

東京農工大学農学部環境資源科学科 教授 高田 秀重 氏

講演では、マイクロプラスチック汚染の現状、動態、生物影響、有害化学物質曝露源としての役割、汚染のトレンドと人新世、SDGs とマイクロプラスチックへの国際対応についてご紹介いただいた。

現場で採取されたマイクロプラスチックの実物に触れながら、マイクロプラスチック汚染の特徴として、プラスチックの多くは水に浮いて長距離運ばれること、その過程でフラグメント化するだけでなく、

微細なマイクロプラスチックは生物膜の付着によって沈降するため、堆積物がその大きなシンクになっている可能性が指摘された。

マイクロプラスチックはさまざまな起源から水環境中に供給され、例えば洗顔料中のマイクロビーズは生活排水中に含まれるが、そのほとんどは下水処理で99%除去される一方で、東京都のような合流式下水道区域では雨天時越流水から水環境中に放出されているとのことであった。

水環境中にさまざまな起源から排出されたマイクロプラスチックは海洋生物に摂食されると物理的なダメージを受けるだけでなく、マイクロプラスチックに含有する有害化学物質が生物体内に取り込まれ、その影響が懸念されることも示された。

講演では、児童や市民とのマイクロプラスチック調査の協働、国際貢献活動や国際対応の現状も含めてご紹介いただいた。マイクロプラスチックに関する国際対応とその現状から、プラスチックの使用削減のみならず、これからの社会でのプラスチックのあり方を踏まえた対応が重要であるとの認識を深めた講演であった。



講演の様子（高田先生）



砂浜に混入しているマイクロプラスチック汚染の状況を再現